

環境と税

川崎市立川崎高等学校附属中学校 3年 松本 莉歩

近年、SDGs への関心が高まっている。私も学校の授業でSDGs について考える機会があった。その授業で私は、SDGs の目標 13「気候変動に具体的な対策を」に着目して調べ学習を行った。「気候変動に具体的な対策を」の具体的な課題として、熱波や集中豪雨など世界中で起こっている自然災害があり、それらの原因は地球温暖化であると分かった。これに対して日本はどのような対策を行っているのか調べてみた。そこには「税」が関係していた。

地球温暖化の一番の原因は二酸化炭素であるため、日本は2012年から「地球温暖化対策税」を導入したことが、調べて分かった。これは原油やガスなどの化石燃料が対象で、これらの燃料の二酸化炭素排出量をもとに税率が決まり、税金が課される。ただ、税額は二酸化炭素の消費者が払うので結果的にはガソリンや電気、ガス代の値上がりという形になっている。環境省のデータによると、「地球温暖化対策税」の導入によって見込まれる一世帯あたりの家計負担は一年間で約1,200円だという。また、調べていく中で「森林環境税」というものも見つけた。これは森林保全のために国民一人当たり年間1,000円を納税するものだ。住民税とともに徴収され、2024年から導入されるという。これらの税の導入によって、実質的な増税がされているというわけだ。

令和元年に消費税が10%に引き上げられたが、その時ニュースなどで「増税は困る」といった声を多く聞いた。その当時は何も思わなかったが、環境保全に税が課されていることを知った今、増税に嘆く前にできることはあったのではないかと思う。なぜなら、環境税とは違うものとはいえ、私たちの行動が税金を上げる一つの理由になりうるからだ。環境税の場合は、二酸化炭素を多く排出しているという行動が実質的な増税につながる。もっと省エネなどの対策をすれば、環境税の負担は少し軽くなり、今後の新たな環境税の導入も防げたのではないか。私たちの行動によって使われる税金が増えるが、省エネに取り組むなど私たちの普段の行動を見直すことでその分の税金を他のことに使えて税金が有効活用できるのではないだろうか。こう思った私は家族に考えたことを話した。今我が家では、冷房の温度を1℃高くしたり、窓に貼る断熱材を使って冷暖房の効果を高めるなど、少しずつではあるが省エネに取り組んでいる。

税金は私たちの生活に欠かせないものだということは周知の事実である。税金を社会により役立たせ、私たちの生活をより豊かにさせるために、税金が私たちの生活にもたらす利益を意識し、日々のちょっとした行動を変えてみてはどうだろうか。